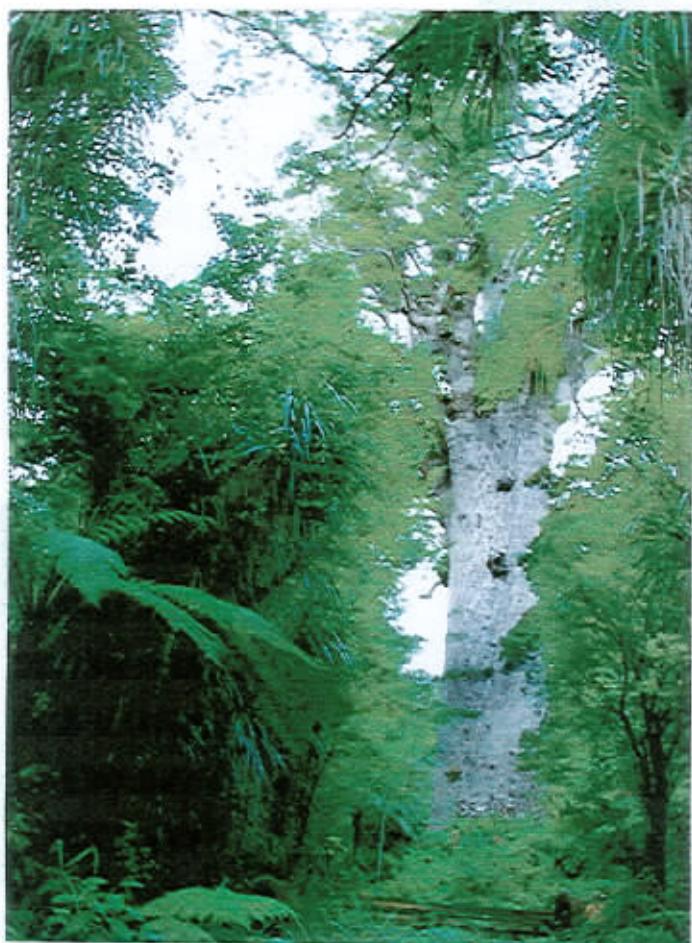


**Waipoua Forrest
Run & Walk 2009**



ワイポウア フォレスト ラン&ウォーク 2009

平成 21 年 5 月 22 日 (金) ~ 5 月 26 日 (火)

石橋 巧・撮影 / 石森 陽子・記

飛行約10時間をかけ、時差3時間、気温15°C前後のNZ、5日間のツアーに参加。

NZ空港には、お世話になるホキアンガ村の関係者と、通訳をしてくれるアイちゃん（現地に在住する神戸出身の笑顔が可愛い）が、を出迎えてくれました。

早速、オークランドからの長いバスツアー開始です。途中、おいしいランチと休憩、



咲き競う花々の美しさと香りを楽しみました。

ミュージアムでは、NZの歴史、特に森林伐採とその過程など、森と人々の関りを学びました。カウリの木は、成長と共に下の方の枝を自ら落とし、そこを樹液が覆い、外敵から身を守り、太く真直ぐな大木になる。

やがて樹液も、大きく硬い塊となって自然に落下し、何年も大地に埋もれ、岩石の如く発掘、加工・研磨され、その価値と経済効果を高めていると言います。琥珀色の落ち着いた色合いと光沢を持つ美しい工芸品を沢山見ることが出来ました。



いよいよ、原住民マオリの聖地、ワイポウアの森の神とも言われるカウリの巨木、「タネ・マフタ」に挨拶です。根を保護するため、周囲を柵で保護されており、直接手で触ることは出来ませんが、その大きさに圧倒されました。

夜は、ホキアンガにあるマオリの集会所マエラを訪問し、地元の人々の歓迎の儀礼を体験しました。祈りや歌で始まり、人々のつながりや生命を象徴するホンギという、鼻と鼻をつける挨拶をしました。現地の子供も大人も、皆が一斉に歌うことの多さ、人々のリズム感などに感嘆しました。私達も、日本人なじみの歌、「ふるさと」を合唱、返礼しました。

♩ ♪ ♫ ♬ ♪.

その後、肉と野菜を中心に蒸し焼きにした「ハンギデナー」というマオリの伝統的な料理が振舞われ、デザートのアイスクリームやヨーグルト、果物も美味しいって、長旅の疲れを癒してくれました。



子供達が、後片付けまで、一生懸命手伝う姿が、とても印象的でした。さらに、「日本の歌を教えて欲しい」との希望があり、仲間がアルファベットで「上を向いて歩こう」を書くと、すぐ歌いだし、やがて全員での大合唱になり、周囲の山々に響き渡りました。

全員で記念撮影を終え、遅くホテルに戻りました。 ♪ ♪ ♫ ♬ ♪.

波の音も聞こえないほど静かなビーチサイドのホテルで、2日目の朝を迎えました。対岸に広大な砂丘があり、ボートが停泊しているのどかな風景です。NZは、日頃、雨が多いといわれますが、この夜間に舞い降りた雨の水溜りが残り、木々の緑もいっそう鮮やかに映えていました。次第に、青空と白い雲が浮く好天気になり、「これが NZらしい空」とも教わりました。



メインイベントのマラソン＆ウォーク大会。樹齢 2000 年以上の巨木が見守る森で、順位を競わず、森のエネルギーを吸収し 12Km を楽しむという企画。参加者への注意はありましたが、交通規制もない一般道での開催でした。運営は、全て住民ボランティアで行なわれ、車椅子利用者等およそ 250 人が参加し（昨年は 200 人）、ランナー、速歩、歩くグループの順にスタート。

私は、ノルディックウォーキングを始めて 1 年、「ゆっくり森を歩こう」と、最後のグループに参加しました。しかし、歩き始めると自然に加速し、途中、立ち止まって仲間を待つことが多くなりました。この繰り返しが苦痛になりかけていた頃、一人黙々と近づいてくる仲間がいました。彼女は、「時々、ウォーキング大会 30 km に参加し

ており、あまり遅いと疲れる」と。日頃から、歩く姿勢やコミュニケーションを大切にするウォーキングです。ふたりのスピードが一致することを確認し、豊富な海外旅行やウォーキング歴などを聞きながら、道連れとなりました。

環境が類似する屋久島と姉妹都市協定をしている森のなか、巨木が連なる道路際にも苔が生え、一部紅葉も見られる緑豊かな森の空気が爽やかで、森林浴を充分に楽しめました。私達は、笑顔と、「こんにちわ・ありがとう」の挨拶「Kia Ora」キオラ、ゴールまでの距離や花の名前を尋ねる程度でしたが、スタートやゴール地点、ウォーキング中の交通整理、水分補給など様々な場面で、現地の人々との交流がありました。

およそ2時間、先着のランナーや関係者の大きな拍手のなか、二人一緒にゴールインし、大満足でした。全ての参加者が完走・完歩。最終者がゴールしてから始まった閉会式では、市長ら地域有力者のご挨拶、抽選による参加者への記念品授与に和気藹々、どの笑顔も明るく輝いていました。



緑の絨毯を敷き詰めたような牧草地の

美しい風景が続くNZは、伐採から生まれる木工製品や酪農などにより、高い経済効果があります。一方で、海への影響が危惧され、放牧地を買い上げ森の再生を願う活動が行われていることに協力し、私達一人ひとりが現地の人と一緒に、タライレ・カウリなどを植樹しました。

植林地を案内した活動家は、素足で山を駆け回る身軽さにびっくり。草原には、棘を持つ植物も生え、あちこちに牛の糞が隠れています。ピョンピョン飛び跳ねながらの指導でした。作業終了後に拝見した彼の素足が、無傷だったことに再び驚きました。



夕食後は、ヘッドライトを付け、再び夜の森へのツアー。

きらめく星空の下で、私達は、夜道を歩く自分の足元への気遣いだけで精一杯です。が、夜道を歩くのは、ツアー客ばかりではありません。ガイドさんが、道の真ん中を這う拳大のカタツムリを発見し、安全のため道端に移動させてあげました。また、発見・取得していたカウリ樹液の塊を大事に持参し、取得した現場で見せてくれました。

見上げた木の枝先では、蜘蛛が巣つくりをしているのが見えました。残念ながら、期待していた鳥や動物には遇えず、キュイの巣立った穴を見るに留まりました。



闇の中で、緑の葉の裏が真っ白なシダにも巡り合い、夜の道標や読書に利用されたということが、よくわかりました (NZ を代表する植物)。この森では、ガイドさんが語るマオリの生活に関する森の生命の物語や、樹齢 2000 年以上の森の父といわれる「テ・マツア・ナヘレ」への挨拶、祈りの歌が響き渡りました。

シンデレラ姫の如く、午前 0 時近い時刻にホテルに戻る充実した一日。シャワーを浴び、2 日目の深い眠りにつきました。 ☆★☆★☆ ☆★☆★☆ ☆★☆★☆

朝食後は、約 1 時間のミニクルーズ。海の青さと岩場の白い波吹雪、再び NZ の歴史を学びながら、ホテル対岸の砂丘へ。靴を船上に置き、素足になって波打つ砂浜に降り、砂丘を散策。久しぶりに、大地を踏みしめる素足の快感を味わいました。が、昨夜の雨で湿っている砂丘には、それぞれの足跡がしっかりと残り、美しい砂丘を乱しました。まるで、雨上がりの街を散策した猫が、足跡で家中を汚した如きで、いっとき、反省と回復のための雨乞いをしました。

その後、ホーンカービング職人のご夫妻宅を訪問し、形や文様によって様々な意味を持つ作品に魅せられました。生命の存続や、安全安心、友愛を意味する工芸品です (最終頁参照)。ここで、これまでご一緒した 8 日間コースの仲間と、お別れです。

オークランドに向って、およそ 4 時間を要する 8 人だけのバスツアー。移動の途中、どしゃ降りの雨にも合いましたが、バスの中はボックスランチとお昼寝タイム。大きな影響もなくショッピングモールやハニーセンターに立ち寄り、ツアー仲間にいた蜂蜜専門家の説明を聞きながら試食や、ショッピングを楽しみました。

黄昏時に到着したオークランドには、雨の痕跡がありませんでした。シーサイドのイタリアンレストランで、5 日間コースの仲間との最後の晚餐。海に浮ぶ大小の船を

眺めながら飲むビールやワインの美味しかったこと。羊や鹿肉・生牡蠣や海老等の料理、トイレのことを考えセーブしていた飲み物も存分に味わいました。

そして何よりも、このツアーチームの皆さんに、小家族のような親しさを感じることが出来たことが、大きな喜びでした。日本で開催されたあるマラソン大会で3位となった賞品が、このツアーゴ招待というラッキーな女性ランナー(走り続けて25年以上)もあり、「継続は力」を再認識しました。

食後も、遅くまで街を歩き、最後の夜を楽しみました。また、久しぶりにバスタブを利用することができ、日頃、日本の恵まれた生活環境にいる幸いを、異郷で噛みしめていました。

帰国の朝は4:30起床。5:30ホテル出発。遅れる人もなく順調なスタートでした。

NZ、2回目の今回の旅は、5/22～26の短期間・限局した地での綿密な計画、一日の過ごし方にびっくり。ゆったりしたなかで、毎日が充実した日々でした。この間、いつも多いといわれる雨は、夜間や移動中に降りましたが、スケジュールに影響することがなく、むしろ好天気に恵まれました。私のニックネーム、Sunny効果もあったのかな？

ノルディックウォーキングとの出会いは、「癒しの環境研究会」主催の「フィンランド医療福祉視察研修」に参加し、このウォーキング発祥の地で指導を受け、森を歩き、ポールを購入して帰ったものの、放っていました。やがて、リウマチによる足腰や手の痛みのために筋力低下、人が歩く10分程度の距離を3～5回休息、電車を待つのにきちんと立っていられず、かがみ込む辛い日々が出てきました。

そんな時、品川区のイベントで、長谷川先生の指導を受けたことが、ウォーキング開始の契機となりました。以前から行っていた水中ウォーキングと共に継続し、いつの間にか症状が緩和、歩行スピードもアップ。動作時の腰痛や手の痛みが消えることはありませんが、歩行に障害はなく、完歩できたことが最高の喜びとなりました。同時に「多くの人々に、この運動を楽しんでもらいたい」の思いが強くなりました。

一方、リウマチによる頸関節炎の影響か、単に加齢によるか、難聴が進行している私は、あいちゃんの通訳・言葉が聞き取れず、笑いについていけない寂しさもありました。仲間にも補足していただき助かりましたが、いい加減な解釈が多いかも？

言葉が不自由でも通じる笑顔、挨拶「Kia Ora」、支えあう仲間の存在（現地の人々の相互力も含め）、動物達の美しい放牧風景、何千年も生き続ける巨大樹木の存在、森再生への活動など、海に囲まれた国の大豊かな自然の息吹から、生命・魂・絆などを感じ、それらについて再考する機会となり、大きな力をいただいたように思います。

このツアー企画初期に40名を超えた申し込み者が、感染症発生に伴い約半数の方がキャンセル。その皆さんに申し訳ないような、楽しい時を過ごすことができました。

写真をご提供いただきました石橋巧様に、厚くお礼申し上げます。脳梗塞後遺症が残るなか、重いカメラを抱え撮影に懸命でした。この趣味を支える奥様の美穂子様は、大きな荷を抱えつつ優しい笑みを浮かべながら、いつも近くで見守っておられました。そのお二人の姿が、とても印象に残りました。

私達を温かく迎えてくれた現地マオリの皆さん、通訳・あいちゃん、企画社「リボーン」関係者、このツアーに参加の機会をつくってくれたノルディックウォーキングの師である長谷川先生、参加者皆様に感謝致します。ありがとうございました。



♡♡♡♡♡ ♡♡♡♡

Sunnyこと、

石森 陽子 2009.6.8 記

撮影・写真提供： 石橋 巧 (藤沢市在住)

*参考資料

AGUIDE TO

MAORI CARVINGS

マオリ・カービングの解説

	TWIST ツイスト INFINITY 無限(大)、永遠 永遠		TIKI ティキ GOOD LUCK, SYMBOL OF FERTILITY 幸運、安産と多産 幸運、順産
	DOUBLE TWIST ダブル・ツイスト BONDS OF FRIENDSHIP 友情の絆 友情		WHALE TAIL ホニール・テール SYMBOL OF STRENGTH 強さの象徴 強大な象徴
	TRIPLE TWIST トリプル・ツイスト ETERNITY, EVERLASTING 無窮、果てしない 無窮		DOLPHIN ドルフィン LOVE&PEACE 愛と平和 愛和平
	DISC ディスク WHOLE UNIVERSE 宇宙全体 宇宙全體		STYLISED HOOK スタイライズド・フック GOOD LUCK, SAFE JOURNEY OVER WATER 幸運、船旅の安全 幸運、出行平安
	KORU コル NEW BEGINNINGS, GROWTH&HARMONY 新しい始まり、 成長と調和 新的開始 順利成長		HEI MATAU (FISH HOOK) ハイマタウ(釣り針) GOOD LUCK SAFE JOURNEY OVER WATER 幸運、船旅の安全 幸運、出行平安
	SPIRAL スパイラル CIRCLE		CIRCLE 幸運、船旅の安全 幸運、出行平安

巨泉のOKギフトショップ Auckland店
TEL: 09-303-1851 FAX: 09-303-1800
email: okgift@okgiftshop.co.nz



WHALE TAIL

Safe Travel on Sea
航路の安全



TRIPLE SPIRAL

Continuation of Life
生命の継続



DOUBLE SPIRAL

Never Ending, Life's Travels
果てしない生命の旅



HEI MATAU (FISH HOOK)

Sustenance, "Good Luck"
生命を維持する道具、幸運



FAMILY

Embracing, Entwined, Belonging
抱擁、絡み、所属するもの



LOVE

Enjoyment, Fish hook
喜び、釣り針

Looking at New Zealand LOCATION MAP

